「和歌山ってどんな所？」

ファジャル　スチヤディ
経済学部経済学科 1年　インドネシア

留学生の友達に「和歌山ってどんな所？」とよく聞かれた。やはり留学生や外国人にとって、大阪や東京と比べ、和歌山はあまり有名な所ではない。和歌山は「地方」や「田舎っぽい」とよく言われた。実は和歌山に来たとき、私もそう思った。日本に来る前、「日本はモダンである」というイメージをずっと持っていた。たくさん高層ビルがあり、交通も便利であり、ドラえもんに登場するような現代的な日本のイメージだ。しかし、和歌山に来てみると、高層ビルがなく、新幹線もなく、交通も不便だ。大阪はどこでも IC カードが利用できるが、和歌山市は 2020 年にようやく利用できる。私の持っていた日本のイメージとはまるで反対だ。

しかし、私は和歌山の魅力を見つけた。2019 年 5 月から一週間に一回、海南市で小学生に英語を教えている。そこで私は日本の小学生に初めて会った。小学生達も英会話教室で外国人に初めて会った。第一回目の授業で、皆は緊張し過ぎて黙ってしまった。子供たちは英語が全く話せないので、私の言ったことを全然理解できなかった。また、子供たちの話す和歌山弁は、当時の私には全く理解できなかった。私は日本の生活にもう慣れたと思っていたが、言葉の壁のせいで日本人を理解するのがこんなに難しいのかと驚いた。ところが、7 月になると私も子ども達もだんだん慣れてきて、授業もスムーズにできるようになった。

夏休みの前に子供たちは食事会をする予定があった。その時、「先生、一緒に行こう。」と子供たちが私を誘ってくれたのでとても感動した。つい２ヶ月前まではいつも黙っていた子供たちが、まさか食事会に誘ってくれるとは考えもしなかった。私は生徒の両親や子供たちと食事を楽しんだ。その時、急に故郷のことを思い出し、まるでインドネシアにいるような感じがした。実はインドネシアの実家では、近所の人達とよく一緒に食事をするので、故郷の雰囲気を感じたのだ。そのとき、私は生徒たちが日本人だと思わず、みんなも私を外国人だと思わずに、同じコミュニティのメンバーとして楽しい時間を過ごした。私は“ファジャル・スチヤディ”個人として和歌山の人々に受け入れられ、そして、みんなが平等に接してくれているのを感じ、和歌山は第二の故郷だと思うようになった。

私にとって日本に住んでいる間で最も重要なことは生活に慣れることだ。留学で家族や友達と離れ、一人暮らしの生活をし、母語を話すことも少なくなるので、やはり悲しくて寂しい思いをしている。その悲しみや寂しさを忘れるためには、新しい友達や近所の人に受け入れられることが最も大事だと思う。大都市では人と人とのつながりが希薄になりがちで、他の人に話しかけたり、他の人から話しかけられたりすることはあまりないので、留学生は日本人の友達が作れなくなり、日本に住んでいる母国の友達や留学生同士の友達しか作れない。それは日本の生活に完全に慣れるとは言えないだろう。

和歌山は大都市ではなく、高層ビルもなく、交通は非常に不便である。しかし、留学生の私にとっては、大都市で遊ぶことよりも周りの人々に応援してもらうほうが母国から離れていても寂しさや苦しさが癒される。それはこの和歌山でしか見つけることができない。

What Kind of Place is Wakayama?

FAJAR SETYADI
Faculty of Economics, International Student／Indonesia

I have been living in Wakayama for the past three year. Wakayama is not a big city. When people imagine living in Japan means travelling across the country with high speed train or get lost in the concrete jungle, I must be satisfied by a modest bus system and quiet environment.

Unbeknownst to everyone, I have a part time job as an English teacher. One of my class that I'm in charge of is a children class in Kainan city. The class' first meeting was my first encounter with Japanese children, and the children have never met any foreigner before me. The next 2 months were so hard for us. Fortunately, they got used to me and vice versa.

One summer day, the children invited me to the dinner with their parents. I felt welcomed and didn't feel that I'm living in a foreign country. I feel like I'm back in my hometown. This is the charm of Wakayama. The people welcome you with open arm and take you as one of their own.

Wakayama Itu Tempat Seperti Apa Ya?

FAJAR SETYADI
Fakultas Ekonomi, Mahasiswa Internasional／Indonesia

Saya sudah tinggal di Wakayama selama tiga tahun terakhir. Seperti yang Anda ketahui, Wakayama bukanlah kota besar. Orang membayangkan tinggal di Jepang seakan kita bisa bepergian dengan Shinkansen dan dikelilingi gedung tinggi. Namun, saya harus puas dengan bis sederhana dan kehidupan yang sunyi.

Saya sekarang bekerja paruh waktu sebagai pengajar Bahasa Inggris. Salah satu kelas yang saya ampu adalah kelas anak kecil di Kainan. Pertemuan pertama di kelas itu adalah pengalaman pertama saya mengajar anak kecil Jepang. Mereka belum pernah bertemu dengan orang asing. Dua bulan berikutnya amatlah sulit. Untungnya, setelah itu kami sudah saling mengerti satu sama lain.

Pada musim panas, saya diundang oleh para murid ke acara makan bersama. Dalam kesempatan itu, saya merasakan kehangatan orang-orang Wakayama. Saya tidak merasakan kalau saya tinggal di negara orang, tetapi di kampung halaman. Inilah daya tarik Wakayama.